

友達と関わって遊ぶ中で、 自分の思いや考えを言葉で伝え合える幼児の育成 一心を動かすような体験を共有できる遊びを通して

特別研修員 幼児教育 我満直子(幼稚園教諭)



幼児の実態

- ・思い通りにいかないと黙って遊びを抜ける。
- ・言葉で伝えられなかったり、言葉が足りなくて伝わらなかったりする。



教師の願い

- ・自分の思いや考えを、自分なりの言葉で言えるようになってほしい。
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。

手立て

体験を共有し、友達との関わりを生み出す場の工夫

- ・心を動かすような体験
- ・友達の話聞く場面を設定
- ・友達と協力しないと扱えないような材料の提示
- ・繰り返し遊べるような場や時間

環境の構成

友達に言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛け

- ・自分の思いを出せるような言葉掛け
- ・伝えることを促す言葉掛け
- ・友達の思いに気付く言葉掛け

援助

～心を動かすような体験が共有できる遊び～

実践例「大型段ボール箱で遊ぼう」 5歳児10月



わあ!

大きい段ボール箱だ!

心を動かす

運動会で使ったような大きな段ボール箱をみんなの見えるところに出す

友達と関わりが生まれるように段ボール箱の数は少なめにする

遊びが広がるようスペースを広くしておく



呼んでくるから待って

自分の思いを伝える

〇君はどう思っているのかな?

友達の話を聞く場面を意図的に作る



もも組さんが来てくれて、うれしかった

友達の話を聞く

今みたいに言ってみたら?

どんなことをして遊んだの?



びっくり箱に遊びに来て!

うん! いいよ

年中児を遊びに誘う

貼ってみようよ
ガムテープで



段ボールが立つように考えを出し合う



積み木で押さえてみよう!

1111置くね

成果と課題

- 友達と協力しないと扱えないような材料を提示し、友達と一緒に繰り返し遊べる場や時間を保障したことで、いろいろな場面で言葉でのやり取りが増え、思いや考えを伝えることにつながった。
- 教師が先回りして教材を提供したり、必要以上に言葉を掛けたりすることで、思いや考えを伝え合う機会がなくなってしまうこともある。今後も、教材の提示の仕方や教師の関わり方を工夫していきたい。